

令和6年度 第1回 帯広市行財政改革推進委員会 議事要旨

日時：令和6年7月26日（金）15時00分～16時00分

場所：帯広市役所 10階 第5B会議室

☐ 出席委員

岩本博幸委員長、河西智子委員、坪沙代委員、三品幸広委員

☐ 事務局

総務部 河原職員監

総務部 組織人事室 人事課 藤芳課長、奥秋行政改革主幹、林人事・行革係長、砂岡主任補

☐ 傍聴者等

報道関係者2名

☐ 会議次第

- 1 開会
- 2 交代委員紹介
- 3 本委員会について
- 4 議題
(1) (仮称) 第2次帯広市行財政改革計画（骨子）について
(2) その他
- 5 閉会

☐ 議事概要

発言者	時程	内容
事務局	15:00	これより、令和6年度 第1回 帯広市行財政改革推進委員会を開催する。 本日、6名中4名の委員の出席をいただいているため、帯広市行財政改革推進委員会設置要綱第7条第2項の規定により、会議が成立していることを報告する。 (事務局挨拶、会議趣旨説明、交代委員紹介、本委員会について、資料確認)
事務局		今後の議事については、設置要綱第6条第2項の規定により、委員長が議長を務めることとされていることから、岩本委員長に進行をお願いする。 (委員長から挨拶)
委員長	議題(1)	続いて、(1)「(仮称)第2次帯広市行財政改革計画（骨子）について」を議題とする。事務局から説明されたい。
事務局	15:05	(資料2に基づき、取組状況について説明)
委員長		ただいまの事務局からの説明に対し、意見や質問があれば発言願う。

委員		数値目標はどのようにして決まっていくのか。現在の目標値は実績値との乖離が大きく、評価が難しい状況になっている。決まる前にしっかりと見せてほしい。
事務局		今後、決定していく具体的な取組内容も踏まえ、どのような指標で成果を測るのかを検討していく考えであり、皆さんには計画（原案）の段階でお示しし、ご意見等をいただく予定。
委員長		「月間の時間外勤務が 45 時間を超えた職員の数」を見ると、コロナ対応など突発的な業務もあり、特定の部署やスタッフに偏っていると思われる。それらの問題を解決することは難しいと思うが、例えば時間外勤務の実績を分析して時間や偏りなどの調査を行うとか、民間の取組を参考にするなどして、多面的に平準化を試みてほしい。 また、業務ごとに具体的な目標を設定するなど、指標の分散化を検討してはいいかがか。
事務局		指標については、取組の成果を正確に測れる指標にしたいと思っており、準備が整い次第、皆さんにお示しし協議していきたい。
事務局		指標を「月間の時間外勤務が 45 時間を超えた職員の数」とした経緯については、「一定の時間数を超えた職員の数」と「年間の総時間数」のいずれかとなったが、基準値が必要となり、最終的に繁忙期の時間外勤務実績も踏まえて「45 時間を超えた職員の数」となったもの。次の計画で時間外勤務を指標とするかは未定だが、働き方が注目されていることもあり、組織として改善が必要と思っている。
委員		目標値設定の考え方やプロセスを明確にして欲しい。 話は変わるが、令和 5 年度の定年退職者は 0 人なのか。
事務局		定年延長が始まったため、定年による退職者は 0 人となっている。
委員長		離職と職員の確保は全国的な問題。他市町村の取組も参照しながら対策を検討してほしい。
事務局		官民間問わず、離職と職員の確保は問題となっている。公務員は地方公務員制度の範囲内に限られるため、給与をはじめとする待遇改善などの抜本的な対策は難しいが、国では地方公務員制度の見直しが検討されているので、今後も注視していく。また、他自治体の取組について情報収集し、できることは積極的に検討していきたい。
委員		他自治体の特徴的な取組を計画に取り込むのは、逆に難しい。

委員長	ユニークな取組ほど、首長のトップダウンで行っていることが多く、しっかりと結果に結びついているか確認できるものは多くないと思う。 一方で、民間含めて若者の職業観の変化はよく聞く。待遇（給与）や出世（昇任）ではなく、「自分の時間を確保したい」という働き方の部分に重きを置いている人が多い。世代間で考え方に違いはあるが、ニーズの把握は必要だと思う。
委員	資料2 4-(3)-② に「人事評価制度の活用拡大」とあるが、評価の方法によっては意欲の減退につながる可能性はないか。
事務局	人事評価制度導入時に、そもそも公務員はチームで業務を遂行しているのに、個人を評価することは可能なのかという議論があった。 若い人は比較的「評価されることが当たり前」と認識しているが、その評価が適正に行われているか、どう評価されているかを重視している。 また、国では評価による給与差の拡大について議論されている。本市の評価は管理職と一般職で異なっており、管理職の方が勤勉手当への反映が大きく、差がつきやすい仕組みとなっている。
委員	管理側と一般職員では時間外に対する意識に差があるのではないか。それが大きく乖離していると意欲の減退につながってしまう。 地元で働きたい人は増えている。市役所は転勤がなく、給与等の待遇も安定しており、魅力的だと思う。そのような中で離職する理由は何か。様々な面から分析し対策を講じる必要がある。
事務局	離職の要因分析は課題感として持っているため、把握に努めていきたい。
委員長	辞める人はなかなか本当のことを教えてくれない。 従業員と経営者を対象にした「職の満足度評価」というものがあり、「〇〇について、経営者はできていると思っているが、従業員はそう思っていない。」というように、どこにズレが生じているかを知ることができる。このような部分を把握することも大事だと思う。
委員	金融機関も人がどんどん減っている。 職の満足度が重要とされていて、自己実現（やりたいことができる）と自分の仕事がかかけ離れてくると離職につながる人が多いと感じる。
事務局	内部でも同様の意見が出ていた。ある世代までは快適な生活を目指して働いていたが、今の若い世代は快適な生活を前提に自己実現を目指して働いており、その差が離職という形で表れているのではないかということ。求めるものが高くなってきていると感じている。 離職者防止に向け、改めて公務員の強い身分保障制度など恵まれている面も伝えていく必要があると思っている。

委員	資料2 4-(3)-② は難しい内容だが、とても重要。
委員長	例示されている取組を効果的に機能させるには、今働いている職員の考えやニーズを汲み取って検討していくことが大事である。 公務員には様々な制約があり、地方自治体が単独では出来ないこともあると思うが、若い人のマインドが変化してきている点を踏まえ、同じ正規職員の中でも労働時間や給与のパターンを複数用意するなど、ライフステージに合わせた働き方を選択できるようになると意欲の向上につながるのではないかと。
事務局	ライフステージに合わせて働く場所や時間を選択することは国でも活発に議論されている。ある程度の裁量を持たせることは大事だと感じているが、窓口職場など一部の部署では働く場所や時間を選ぶことが難しい点が課題となっている。
委員	窓口業務の効率化は進んでいるのか。
事務局	今年度から水道料金の徴収業務を民間委託している。 資料2 4-(2)-③に記載のとおり、窓口受付時間の見直しも今後の検討課題。
委員長	窓口受付時間の見直しはデジタル化の進捗にもよるだろう。
事務局	受付時間を減らすだけではただのサービス低下になってしまうので、利便性の向上とセットで行っていく必要がある。
委員	窓口業務は減っているのか。
事務局	諸証明書のコンビニ交付が増えてきており、その点では窓口での対応も減ってきていると言えるため、次期計画で窓口受付時間の見直しについて検討していく必要があるとしたもの。 8月からスマートフォンを使ったオンライン申請（決済も含む）が始まる予定であり、その進捗状況も見ながらの判断となる。
委員長	窓口利用者がゼロになることはないが、手続きが自宅から出来るようになり、利便性が上がるのは良い。子ども関係の手続きもできるようになると便利だと思う。
委員	デジタルに関しては、わからなくて何度も聞いたらクレーム扱いされることもあるので、デジタルが苦手な人をフォローする体制は必要。
委員	サポートする場所が必要。デジタル化が進むと窓口での業務内容が変わってくる。簡単な申請等をオンラインにすることで、窓口ではデジタルが苦手な人への

事務局		丁寧な対応が可能となる。 金融機関も同様の流れがきており、入出金に関しては基本的に顧客が自動預払機を操作し、職員は使い方を説明するだけになってきている。それにより、その他の業務に時間を充てることができるようになったほか、顧客一人にかけられる時間が増えるなど、サービス向上につながった。
委員長		市役所の1階ではセルフの窓口と職員サポート付きの窓口が用意されている。 市の業務では直接やりとりを行わないといけない業務もあるかと思うので、デジタル化が進み、ケアが必要な人へのサービスが向上すると良い。 今後、具体的な取組や指標の検討を進めていってほしい。 他に意見等はないか。 (意見等なし)
委員長	議題(2) 15:55	他に意見等がないようなので、この議題については、これで終了する。 つぎに、(2)「その他」を議題とするが、事務局から何かあるか。 (特になし) 特に無いようなので、この議題については、これで終了する。 最後に、全体を通じて、各委員から意見等はあるか。 (意見等なし) 特に無いようなので、事務局より連絡事項をお願いします。
事務局		次回は10月頃の開催を予定している。日時が近くなったら、改めて連絡させていただく。本年度は次期計画の策定年度であり、委員会の開催回数が例年より多くなるが、よろしくお願いします。
委員長	16:00	本日は、各委員から、様々なご意見をいただいた。 これらの意見をしっかりと活用し、今後さらなる取り組みにつなげていくようお願いします。 以上をもって、本日の議事は全て終了する。(以上)